東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物形態機能学Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	菅谷茜（獣医師）		
授業概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標	各動物の形態や機能を理解し、病的変化について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻　動物形態機能学・第3版・ビジュアルで学ぶ伴侶動物解剖生理学（緑書房）		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章　生命のすがた	体を形づくる基本物質・細胞のしくみと働き
2	第1章　生命のすがた	遺伝情報
3	第1章　生命のすがた	上皮組織
4	第1章　生命のすがた	腺組織、支持組織
5	第1章　生命のすがた	筋組織、神経組織
6	第1章　生命のすがた	器官の成り立ちと維持・調節システム
7	第3章　血液循環とその調節	循環器系の概要
8	第3章　血液循環とその調節	心臓の仕組み
9	第3章　血液循環とその調節	心筋の性質
10	第3章　血液循環とその調節	心筋の自動性と興奮の伝わり
11	第3章　血液循環とその調節	心臓の周期
12	第3章　血液循環とその調節	心電図
13	第3章　血液循環とその調節	心臓機能の調節
14	第3章　血液循環とその調節	血管のしくみと働き
15	第3章　血液循環とその調節	血液循環の調節（血圧）
16	第3章　血液循環とその調節	毛細血管を横切る物質の移動
17	第3章　血液循環とその調節	リンパ系のしくみ、脾臓のしくみ
18	第4章　生体の防御機構	生体を守る防御機構
19	第2章　血液と造血器	血球成分と血漿成分
20	第2章　血液と造血器	赤血球の構造と機能
21	第2章　血液と造血器	白血球の構造と機能
22	第2章　血液と造血器	白血球の構造と機能
23	第2章　血液と造血器	白血球の構造と機能
24	第2章　血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常・線維素溶解
25	第2章　血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常・線維素溶解
26	第2章　血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常・線維素溶解
27	第2章　血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常・線維素溶解
28	第4章　生体の防御機構	自然免疫
29	第4章　生体の防御機構	獲得免疫
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物形態機能学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標	各動物の形態や機能を理解し、病的変化について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻　動物形態機能学・第3版・ビジュアルで学ぶ伴侶動物解剖生理学（緑書房）		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第7章　からだの支持と運動	体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分
2	第7章　からだの支持と運動	骨格（骨格の概念）
3	第7章　からだの支持と運動	骨格（骨格系の分類）
4	第7章　からだの支持と運動	骨格
5	第7章　からだの支持と運動	骨格
6	第7章　からだの支持と運動	骨格
7	第7章　からだの支持と運動	骨格
8	第7章　からだの支持と運動	骨格
9	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
10	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
11	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
12	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
13	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
14	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第6章　感覚と情報伝達	感覚系とは
17	第6章　感覚と情報伝達	受容器と閾値
18	第6章　感覚と情報伝達	体性感覚
19	第6章　感覚と情報伝達	体性感覚
20	第6章　感覚と情報伝達	嗅覚
21	第6章　感覚と情報伝達	嗅覚
22	第6章　感覚と情報伝達	味覚
23	第6章　感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
24	第6章　感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
25	第6章　感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
26	第6章　感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
27	第6章　感覚と情報伝達	視覚
28	第6章　感覚と情報伝達	視覚
29	第6章　感覚と情報伝達	視覚
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物形態機能学Ⅲ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）・菅谷茜（獣医師）		
授業概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標	各動物の形態や機能を理解し、病的変化について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻　動物形態機能学・第3版・ビジュアルで学ぶ伴侶動物解剖生理学（緑書房）		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第5章　脳と神経	脳と神経系の役割
2	第5章　脳と神経	神経系を構成する細胞
3	第5章　脳と神経	静止膜電位と活動電位
4	第5章　脳と神経	興奮の伝導とシナプス伝達
5	第5章　脳と神経	シナプス
6	第5章　脳と神経	興奮性シナプスと抑制性シナプス
7	第5章　脳と神経	神経伝達物質と受容体
8	第5章　脳と神経	神経伝達物質と受容体
9	第5章　脳と神経	神経回路、神経系
10	第5章　脳と神経	脳の構成要素
11	第5章　脳と神経	脳神経・脊髄と脊髄神経
12	第5章　脳と神経	自律神経系
13	第5章　脳と神経	行動の神経調節
14	第5章　脳と神経	行動の神経調節
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第8章　外皮系と体温調節	外皮
17	第8章　外皮系と体温調節	皮膚の付属器官
18	第8章　外皮系と体温調節	皮膚による体温調節機構
19	第9章　呼吸とその調節	呼吸器の構造
20	第9章　呼吸とその調節	呼吸器の構造
21	第9章　呼吸とその調節	呼吸
22	第10章　内分泌とホルモン	内分泌とは−外分泌や傍分泌との違い
23	第10章　内分泌とホルモン	内分泌とは−外分泌や傍分泌との違い
24	第10章　内分泌とホルモン	ペプチドホルモン・ステロイドホルモン・アミン型ホルモンとは
25	第10章　内分泌とホルモン	内分泌の基本構造と機能
26	第10章　内分泌とホルモン	内分泌の基本構造と機能
27	第10章　内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島
28	第10章　内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島
29	第10章　内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物形態機能学Ⅳ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	菅谷茜（獣医師）		
授業概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標	各動物の形態や機能を理解し、病的変化について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻　動物形態機能学・第3版・ビジュアルで学ぶ伴侶動物解剖生理学（緑書房）		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第11章　消化吸収と栄養代謝	歯の分類と数・舌の形と働き
2	第11章　消化吸収と栄養代謝	咽頭と嚥下・食道
3	第11章　消化吸収と栄養代謝	胃のしくみと働き
4	第11章　消化吸収と栄養代謝	腸のしくみと働き
5	第11章　消化吸収と栄養代謝	唾液腺
6	第11章　消化吸収と栄養代謝	膵臓
7	第11章　消化吸収と栄養代謝	肝臓
8	第11章　消化吸収と栄養代謝	炭水化物の消化と吸収
9	第11章　消化吸収と栄養代謝	タンパク質の消化と吸収
10	第11章　消化吸収と栄養代謝	脂肪の消化と吸収・代謝総論
11	第11章　消化吸収と栄養代謝	三大栄養素の分子のしくみ・代謝経路の概要
12	第11章　消化吸収と栄養代謝	炭水化物（糖質）の代謝経路・タンパク質の代謝経路
13	第11章　消化吸収と栄養代謝	脂質の代謝経路
14	第11章　消化吸収と栄養代謝	ビタミン、ミネラル
15	ふりかえり	
16	第12章　尿の生成と体液調節	腎臓
17	第12章　尿の生成と体液調節	腎臓
18	第12章　尿の生成と体液調節	腎臓
19	第12章　尿の生成と体液調節	腎臓
20	第12章　尿の生成と体液調節	尿路
21	第12章　尿の生成と体液調節	尿路
22	第12章　尿の生成と体液調節	体液
23	第12章　尿の生成と体液調節	体液
24	第12章　尿の生成と体液調節	体液
25	第12章　尿の生成と体液調節	電解質バランス
26	第12章　尿の生成と体液調節	電解質バランス
27	第12章　尿の生成と体液調節	酸塩基平衡
28	第12章　尿の生成と体液調節	酸塩基平衡
29	第12章　尿の生成と体液調節	酸塩基平衡
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物繁殖学	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	池田亜希子（獣医師）		
授業概要	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。		
到達目標	生殖器の形態と機能、性周期と交配について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻　動物繁殖学・ビジュアルで学ぶ伴侶動物　解剖生理学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章　性と生殖	生殖とその分類
2	第1章　性と生殖	生殖器の基本的なしくみ（雄の生殖器）
3	第1章　性と生殖	生殖器の基本的なしくみ（雌の生殖器）
4	第1章　性と生殖	生殖機能調節に関わるホルモン（雄犬と雄猫の生殖系ホルモン）
5	第1章　性と生殖	生殖機能調節に関わるホルモン（雌犬と雌猫の生殖ホルモン）
6	第1章　性と生殖	発情徴候と発情周期（犬の発情徴候・発情周期）
7	第1章　性と生殖	発情徴候と発情周期（猫の発情徴候・発情周期）
8	第1章　性と生殖	受精と妊娠（犬及び猫の受精、胚の発育及び着床）
9	第1章　性と生殖	受精と妊娠（犬と猫の胎膜と胎盤・犬と猫の妊娠診断）
10	第1章　性と生殖	分娩と助産・帝王切開（犬・猫の分娩徴候・分娩の様式・経過・難産・帝王切開）
11	第1章　性と生殖	遺伝子と器官発生
12	第1章　性と生殖	去勢手術
13	第1章　性と生殖	不妊手術
14	第1章　性と生殖	人工授精
15	第1章　性と生殖	人工授精
16	第2章　新生子管理	新生子期とは
17	第2章　新生子管理	新生子のための飼養環境
18	第2章　新生子管理	新生子のための飼養環境
19	第2章　新生子管理	新生子のための飼養環境
20	第2章　新生子管理	新生子のための飼養環境
21	第2章　新生子管理	新生子のための飼養環境
22	第2章　新生子管理	新生子のための飼養環境
23	第2章　新生子管理	新生子の解剖学的特徴
24	第2章　新生子管理	新生子の解剖学的特徴
25	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
26	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
27	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
28	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
29	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物行動学	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	渡辺まゆみ		
授業概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。		
到達目標	動物行動学の基礎、個体維持行動、発達過程と社会行動、学習理論、問題行動、行動治療について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻　動物行動学		
評価方法	出席2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章動物行動学の基本概念	動物行動学の発展と行動学研究の4分野・動物行動学の成り立ちと発展
2	第1章動物行動学の基本概念	行動学研究の4分野・行動の進化と適応
3	第1章動物行動学の基本概念	家畜化に伴う行動学的変化－犬を例として
4	第2章維持行動の意味と効果	摂食行動・飲水行動
5	第2章維持行動の意味と効果	排泄行動・身づくろい行動・護身行動
6	第3章維持行動の意味と効果	排泄行動・身づくろい行動・護身行動
7	第3章社会行動	群れの社会構造・動物の社会行動とは・社会性が不明瞭な動物の集団
8	第3章社会行動	生殖行動・哺乳類の生殖戦略・性行動・母性行動（育子行動）
9	第3章社会行動	コミュニケーション行動・動物のコミュニケーション行動と感覚世界
10	第3章社会行動	犬の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動
11	第3章社会行動	猫の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動
12	第4章行動発現のしくみ	犬と猫の嗅覚を用いたコミュニケーション行動、敵対行動・親和的行動
13	第4章行動発現のしくみ	行動の動機づけ・脳による行動の制御
14	第5章行動の発達と学習	行動の日周リズム・行動の年周リズム
15	第6章行動の発達と学習	その他の周期性
16	第5章行動の発達と学習	行動の発達科学・新生子期（犬）・移行期（犬）・社会化期（犬）・若年期・成熟期から高齢期・猫の行動発達
17	第5章行動の発達と学習	社会構造の影響・母性行動の影響・遺伝と環境・訓化・感作と脱感作・般化・学習に影響を与える因子
18	第5章行動の発達と学習	古典的条件づけ・高次条件づけ・オペラント条件づけ・三項随伴性・条件付けの方法と消去・反応形成
19	第5章行動の発達と学習	正常行動・異常行動・問題行動とは・問題行動の関連因子・愛玩動物看護師にとっての臨床動物行動学の必要性
20	第5章行動の発達と学習	問題となっている行動を別の行動と置き換える行動修正法（行動置換法）
21	第5章行動の発達と学習	問題行動に関わる強化子・罰子を操作し問題行動を減らす行動修正法
22	第6章問題行動と行動診療	行動診療とは・カウンセリングとコンサルテーション・獣医師の役割・愛玩動物看護師の役割・問題行動の客観的評価法・治療プログラムの作成とフォローアップ、問題行動治療の考え方・環境整備・行動修正法
23	第6章問題行動と行動診療	薬物療法・不妊手術・去勢手術・外科的療法・合成フェロモン・食事療法とサプリメント・基本的なトレーニング・問題行動治療の助けになるグッズ
24	第6章問題行動と行動診療	犬の攻撃行動・犬の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子
25	第7章犬と猫における主な問題行動	猫の攻撃行動・猫の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子

	授業計画及び学習の内容	
26	第7章犬と猫における主な問題行動	恐怖・不安に起因する問題行動の種類・定義・診断基準・犬と猫の攻撃的行動の治療・恐怖行動・不安行動の治療
27	第7章犬と猫における主な問題行動	犬の恐怖・不安に起因する問題行動、恐怖、不安とは・恐怖行動・不安行動の治療
28	第7章犬と猫における主な問題行動	猫の排泄に関する問題行動・排泄に関する問題行動に関連する生得的因子と環境因子
29	第7章犬と猫における主な問題行動	犬と猫の常同障害・犬と猫の高齢性認知機能不全・病因と寄与因子
30	第7章犬と猫における主な問題行動	猫の排泄に関する問題行動の治療・犬と猫の高齢性認知機能不全の治療（進行を抑える）

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物看護学概論	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
到達目標	動物看護の基本となる概念、動物看護の提供体制、愛玩動物看護師の社会的立場について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻　動物看護学概論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療の歴史
2	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療の歴史
3	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療倫理
4	第1章獣医療の歴史と概念	動物看護の歴史と概念
5	第1章獣医療の歴史と概念	国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い
6	第1章獣医療の歴史と概念	第1章ふりかえり
7	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護理論の成立過程
8	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護理論の成立過程
9	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護理論の成立過程
10	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学の成立
11	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学の成立
12	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学と高等教育
13	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学と高等教育
14	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	第2章ふりかえり
15	ふりかえり	
16	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	認定動物看護師の誕生
17	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	認定動物看護師の誕生
18	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生
19	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生
20	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	愛玩動物看護師の職能団体
21	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	第3章ふりかえり
22	第4章動物看護の役割と概念	動物看護とは
23	第4章動物看護の役割と概念	動物看護における倫理
24	第4章動物看護の役割と概念	動物にとっての福祉・健康・QOL
25	第4章動物看護の役割と概念	看護動物に影響を与える環境要因
26	第4章動物看護の役割と概念	動物病院における動物看護師の役割
27	第4章動物看護の役割と概念	動物病院における動物看護師の役割
28	第4章動物看護の役割と概念	動物看護の探求
29	第4章動物看護の役割と概念	動物看護の探求
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	比較動物学Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	大津政義（獣医師）		
授業概要	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。		
到達目標	動物の種類及び特性、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章産業動物	牛の歴史
2	第1章産業動物	牛の特性
3	第1章産業動物	牛の品種
4	第1章産業動物	牛の解剖と生理
5	第1章産業動物	牛の飼養管理
6	第1章産業動物	牛に多い疾病
7	第1章産業動物	牛に多い疾病
8	第1章産業動物	馬の歴史
9	第1章産業動物	馬の活用
10	第1章産業動物	現在の飼育状況
11	第1章産業動物	代表的な品種の特徴
12	第1章産業動物	馬の解剖と生理
13	第1章産業動物	馬の飼養管理
14	第1章産業動物	馬に多い疾病
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第1章産業動物	豚の歴史・品種・特性
17	第1章産業動物	豚の解剖・生理
18	第1章産業動物	豚の飼養管理・豚に多い疾病
19	第1章産業動物	羊の歴史・品種ごとの特性
20	第1章産業動物	羊の解剖・生理
21	第1章産業動物	羊の飼養管理
22	第1章産業動物	羊に多い疾病
23	第1章産業動物	山羊の歴史・品種・特性
24	第1章産業動物	山羊の生理・飼養管理
25	第1章産業動物	山羊に多い疾病
26	第1章産業動物	鶏の歴史・品種
27	第1章産業動物	鶏の解剖生理
28	第1章産業動物	鶏の飼養管理・疾病
29	第1章産業動物	鶏に多い疾病
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	比較動物学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	大津政義（獣医師）		
授業概要	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。		
到達目標	動物の種類及び特性、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章産業動物	畜産業とは・日本の畜産・畜産業の地域による特徴
2	第1章産業動物	畜産業の生産費の構成割合
3	第2章1実験動物学総論	動物実験の目的と配慮・実験動物とは・実験動物の歴史
4	第2章1実験動物学総論	実験動物関連法規の誕生と発展・動物看護師と動物実験
5	第2章2実験動物の管理学	生体因子の管理学・遺伝子モニタリングの管理学
6	第2章2実験動物の管理学	物理化学的因子の管理学・栄養学的管理学
7	第2章2実験動物の管理学	微生物学的管理学・動物実験の基本技術・動物飼育管理上の注意点
8	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	マウス
9	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	ラット
10	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	シリアン（ゴールデン）ハムスター・チャイニーズハムスター・スナネズミ
11	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	モルモット・ウサギ・サル類・その他の動物
12	第2章4疾患モデル動物	自然発症疾患モデル動物
13	第2章4疾患モデル動物	トランスジェニック動物・代表的な実験的疾患モデル動物・研究資源バンク
14	第2章5動物実験の代替法	代替法とその活用・代替法開発の背景と現在の課題
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章野生動物	野生動物の分類と生物多様性
17	第3章野生動物	鳥獣害の現状と管理の意義
18	第3章野生動物	絶滅危惧種の定義に含まれる動物・原因・保全方法やその意義
19	第3章野生動物	外来生物の定義・在来生態系に及ぼす影響・対策
20	第3章野生動物	野生動物の救護
21	第3章野生動物	野生動物救護の対象と内訳
22	第3章野生動物	野生動物の病気と事故
23	第3章野生動物	野生動物の病気と事故
24	第3章野生動物	野生動物の救護体制
25	第3章野生動物	野生動物の救護体制
26	第4章展示動物	展示動物の意義と動物園等の役割
27	第4章展示動物	展示動物の意義と動物園等の役割
28	第4章展示動物	動物園などにおける個体・群管理・行動管理
29	第4章展示動物	動物園などの施設管理
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物内科看護学Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）		
授業概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標	健康の保持、増進、診療補助に必要な技術、検査、処置に必要な技術、投薬に関わる技術、輸液に関わる技術、輸血に関わる技術、心電図、血圧に関わる技術、X線検査とCT/MRIに関わる技術、超音波検査に関わる技術、内視鏡検査に関わる技術、神経学的検査に関わる技術、眼科検査に関わる技術、皮膚と耳の検査に関わる技術について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻動物内科看護学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章動物の健康保持・増進	入院動物の日常管理・動物種による管理上の注意点・排泄の管理
2	第1章動物の健康保持・増進	ワクチネーション
3	第1章動物の健康保持・増進	外部寄生虫の確認・幼若動物の入院看護
4	第1章動物の健康保持・増進	老齢動物の入院看護
5	第1章動物の健康保持・増進	身体検査・アセスメント（評価）項目
6	第1章動物の健康保持・増進	入院動物に関するその他の業務・検疫と隔離
7	第2章衛生・安全管理と環境整備	標準予防策の実際
8	第2章衛生・安全管理と環境整備	感染コントロール
9	第2章衛生・安全管理と環境整備	感染コントロール
10	第2章衛生・安全管理と環境整備	安全管理対策・動物飼養管理中の事故防止
11	第2章衛生・安全管理と環境整備	動物に応じた環境調整
12	第2章衛生・安全管理と環境整備	動物に応じた入院室整備
13	第3章対動物関係の技術	動物のアプローチ・安全な散歩および運動技術
14	第3章対動物関係の技術	安全な散歩および運動技術
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査・状態に合わせた保定法・ハンドリングと保定法
17	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査状態に合わせた保定法・ハンドリングと保定法
18	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査・状態に合わせた保定法・ハンドリングと保定法
19	第4章動物の生活を援助するための技術	健康な食生活・栄養状態の評価と栄養管理
20	第4章動物の生活を援助するための技術	栄養の補給法
21	第4章動物の生活を援助するための技術	摂食行動のアセスメントと援助方法
22	第4章動物の生活を援助するための技術	健康な食生活・栄養状態の評価と栄養管理
23	第4章動物の生活を援助するための技術	栄養の補給法
24	第4章動物の生活を援助するための技術	摂食行動のアセスメントと援助方法
25	第4章動物の生活を援助するための技術	排泄行動のアセスメントと排泄物の観察
26	第4章動物の生活を援助するための技術	自然な排泄を促す援助方法
27	第4章動物の生活を援助するための技術	強制的な排泄・外科的な排泄障害
28	第4章動物の生活を援助するための技術	身体各部の清潔の援助方法・休息・睡眠状態のアセスメントと援助方法
29	第3章対動物関係の技術	罨法
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物内科看護学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	菅谷茜（獣医師）		
授業概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標	健康の保持、増進、診療補助に必要な技術、検査、処置に必要な技術、投薬に関わる技術、輸液に関わる技術、輸血に関わる技術、心電図、血圧に関わる技術、X線検査とCT/MRIに関わる技術、超音波検査に関わる技術、内視鏡検査に関わる技術、神経学的検査に関わる技術、眼科検査に関わる技術、皮膚と耳の検査に関わる技術について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻動物内科看護学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第5章診療補助に必要な技術	診療時における愛玩動物看護師の役割・診療補助・受付および会計業務
2	第5章診療補助に必要な技術	クライアントエデュケーション（飼い主教育）・各種検査業務
3	第5章診療補助に必要な技術	診療時における対象動物の心理・診療時における飼い主の心理
4	第5章診療補助に必要な技術	診療時に必要な器具とその準備・管理方法
5	第6章検査・処置の介助に必要な技術	注射器の取扱い及び管理方法
6	第6章検査・処置の介助に必要な技術	採血
7	第6章検査・処置の介助に必要な技術	侵襲の可能性を伴うその他の処置・酸素吸入・強制給餌・包帯法・化学療法
8	第6章検査・処置の介助に必要な技術	マイクロチップの挿入
9	第6章検査・処置の介助に必要な技術	マイクロチップの挿入
10	第6章検査・処置の介助に必要な技術	穿刺・膀胱穿刺
11	第6章検査・処置の介助に必要な技術	膿瘍・嚢胞の穿刺・胸腔穿刺
12	第6章検査・処置の介助に必要な技術	腹腔穿刺・腫瘤穿刺
13	第6章検査・処置の介助に必要な技術	脊髄腔の穿刺
14	第6章検査・処置の介助に必要な技術	カテーテルの挿入・留置及び管理・静脈留置針
15	第6章検査・処置の介助に必要な技術	尿道カテーテル・経鼻カテーテル・胃カテーテル
16	第7章投薬に関わる技術	投薬に際して確認すべき項目
17	第7章投薬に関わる技術	各剤形の取扱い・錠剤・散剤・顆粒剤
18	第7章投薬に関わる技術	各剤形の取扱い・注射薬・点眼薬・シロップ剤・軟膏剤
19	第7章投薬に関わる技術	薬剤の保存・常温保存・室温保存
20	第7章投薬に関わる技術	薬剤の保存・冷所保存・遮光保存・暗所保存
21	第7章投薬に関わる技術	投与方法とその介助・経口投与・皮下投与・筋肉内投与・静脈内投与
22	第7章投薬に関わる技術	投与方法とその介助・点眼・点耳・霧滴吸入療法・薬浴・塗布
23	第8章輸液に関わる技術	輸液処置時における動物看護師の役割・輸液の適応とリスク
24	第8章輸液に関わる技術	輸液計画・各種輸液剤の適応や特性・輸液に関わる手技
25	第8章輸液に関わる技術	静脈留置針設置の準備と手順・輸液処置中のモニタリング
26	第9章輸血に関わる技術	輸血とは・輸血の適応・輸血のリスク
27	第9章輸血に関わる技術	血液型と輸血
28	第9章輸血に関わる技術	輸血計画
29	第9章輸血に関わる技術	輸血の手順・輸血後の血液検査
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物臨床看護学総論	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。		
到達目標	動物看護過程の展開、診療記録、動物看護業務、ターミナルケアに関わる技術について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第9巻　動物臨床看護学総論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割
2	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割
3	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	臨床における動物のQOL維持の重要性
4	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	臨床における動物のQOL維持の重要性
5	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	動物看護管理
6	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	動物看護管理
7	第2章動物看護過程	動物看護過程とは
8	第2章動物看護過程	アセスメント ～情報収集・解釈・判断～
9	第2章動物看護過程	動物看護診断 ～動物看護上の問題点を抽出～
10	第2章動物看護過程	動物看護計画 ～目標と具体策の立案～
11	第2章動物看護過程	動物看護実践
12	第2章動物看護過程	動物看護実践
13	第2章動物看護過程	動物看護評価
14	第2章動物看護過程	動物看護評価
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章診療記録	診療記録（カルテ）の記入・保存・管理・運用
17	第3章診療記録	動物看護記録の目的や書式・作成方法
18	第3章診療記録	動物看護記録の目的や書式・作成方法
19	第4章動物看護業務	若齢期の動物看護
20	第4章動物看護業務	老齢期の動物看護
21	第4章動物看護業務	老齢期の動物看護
22	第4章動物看護業務	急性期とは・経過別の動物看護の特性
23	第4章動物看護業務	右後肢断脚手術を実施した犬における術後急性期の動物看護
24	第4章動物看護業務	回復期とは・リハビリテーション
25	第4章動物看護業務	前十字靭帯断裂の手術を実施した犬における術後回復期の動物看護
26	第4章動物看護業務	慢性期とは・家庭での継続動物看護を視野に入れた退院計画・指導
27	第4章動物看護業務	糖尿病に罹患した犬における慢性期の動物看護
28	第4章動物看護業務	終末期（ターミナル期）とは・ターミナルケアと看取り
29	第4章動物看護業務	動物医療グリーフケア・死亡した動物への対応とエンゼルケア
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物臨床検査学	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	菅谷茜（獣医師）・池田亜紀子（獣医師）		
授業概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。		
到達目標	臨床検査の基礎、血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診と病理組織検査、遺伝子検査について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻　動物臨床検査学		
評価方法	出席率80%以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章臨床検査の基礎	臨床検査
2	第1章臨床検査の基礎	検査値の考え方
3	第1章臨床検査の基礎	主な検査機器
4	第2章血液検査	採血部位および採血方法
5	第2章血液検査	血漿・血清の分離法
6	第2章血液検査	全血球計算（CBC）
7	第2章血液検査	血液塗抹標本の作製法と染色法
8	第2章血液検査	血液塗抹標本の観察法
9	第2章血液検査	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査
10	第2章血液検査	生化学検査（総論）
11	第2章血液検査	生化学検査（各論）
12	第2章血液検査	生化学検査（各論）
13	第2章血液検査	血液ガス分析
14	第3章血液検査	免疫学的検査
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章尿検査	尿検体の採取法
17	第3章尿検査	尿検体の取扱い
18	第3章尿検査	尿検体の取扱い
19	第3章尿検査	検査手順
20	第3章尿検査	尿沈渣標本に出現する有形成分
21	第3章尿検査	尿沈渣標本に出現する有形成分
22	第4章糞便検査	糞便検査の目的と動物看護師の役割
23	第4章糞便検査	採便方法と観察
24	第4章糞便検査	寄生虫の検査・その他の微生物検査・消化試験
25	第5章細胞診検査と病理組織検査	細胞診検査
26	第5章細胞診検査と病理組織検査	細胞診検査
27	第5章細胞診検査と病理組織検査	病理組織検査
28	第6章遺伝子検査	遺伝子検査とは
29	第6章遺伝子検査	検体の採取法と取扱い
30	第6章遺伝子検査	遺伝子検査の対象疾患

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	愛玩動物学Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	芝田早苗・中村知里・山崎いく子		
授業概要	愛玩動物やの歴史、品種、飼養管理、犬猫の血統、血統書についてや、愛玩鳥やエキゾチックアニマルの特徴、生態、飼養管理、使役動物の歴史と福祉、動物の基本的な取り扱いについて学ぶ。		
到達目標	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻　愛玩動物学・猫の教科書（緑書房）		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
2	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
3	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
4	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
5	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
6	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
7	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	歴史（食肉目の祖先と進化・オオカミから派生した犬）
8	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	歴史（犬の家畜化・犬種の誕生）
9	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	現在の飼育状況（ペットブーム・犬種ブーム・ペットの家族化とトラブル）
10	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	犬の活用
11	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	飼養管理（飼育施設と環境・食事管理・日常の管理）
12	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	飼養管理（不妊・去勢・しつけ・飼い主の法的管理義務）
13	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
14	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
15	第2章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
16	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	歴史（猫の祖先、猫の家畜化）
17	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	歴史（家畜化による変化・DNA解析による祖先の証明・世界に広まった猫、現代の猫）
18	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	現在の飼育状況（世界の飼育状況・日本の飼育状況・屋内飼育・屋外飼育・不妊・去勢・猫の殺処分と地域での保護）
19	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	猫の活用（動物介在療法・動物介在活動・猫カフェ）
20	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	特徴（猫のネオテニー・身体の特徴）
21	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	ライフサイクル
22	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴（品種・血統の作出・長毛種・短毛種）
23	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴（変形等形態的特徴を持つ品種）
24	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴（変形等形態的特徴を持つ品種）
25	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	飼養管理（関連法規と必要な配慮）
26	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	飼養管理（猫の福祉）
27	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング（グルーミングの必要性）
28	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング（猫の手入れをするときの注意点）
29	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング（グルーミングに必要な道具・シャンプー）
30	第3章猫の歴史・品種・飼養管理	動物愛護史

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	愛玩動物学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	芝田早苗・山田広美・山崎いく子		
授業概要	愛玩動物やの歴史、品種、飼養管理、犬猫の血統、血統書についてや、愛玩鳥やエキゾチックアニマルの特徴、生態、飼養管理、使役動物の歴史と福祉、動物の基本的な取り扱いについて学ぶ。		
到達目標	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻　愛玩動物学・猫の教科書（緑書房）		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第3章血統と血統書　犬	血統書の意義・血統書の読み取り方
2	第3章血統と血統書　犬	血統管理と品種改良
3	第4章血統と血統書　犬	血統管理と品種改良
4	第3章血統と血統書　猫	血統書の意義・血統書の読み取り方
5	第3章血統と血統書　猫	血統管理と品種改良
6	第4章血統と血統書　猫	血統管理と品種改良
7	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	歴史・現在の飼育状況
8	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	代表的な品種の特徴
9	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	飼養管理
10	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	飼養管理
11	第5章ウサギの特徴・生態・飼養管理	背景
12	第5章ウサギの特徴・生態・飼養管理	飼養管理
13	第6章げっ歯類（ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など）	背景
14	第6章げっ歯類（ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など）	ハムスターの分類・生態・特徴
15	第6章げっ歯類（ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など）	ハムスターの飼養管理
16	第6章げっ歯類（ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など）	モルモットの分類・生態・特徴・モルモットの飼養管理
17	第7章フェレットの特徴・生態・飼養管理	背景・飼養管理
18	第8章カメの特徴・生態・飼養管理	背景・主な品種・飼養管理
19	第9章エキゾチックアニマルの繁殖過程	性周期・ウサギ・げっ歯類・フェレット・鳥類
20	第10章エキゾチックアニマルの繁殖過程	性周期・ウサギ・げっ歯類・フェレット・鳥類
21	第11章エキゾチックアニマルの繁殖過程	性周期・ウサギ・げっ歯類・フェレット・鳥類
22	第11章動物の基本的な取り扱い（犬）	動物を安全に散歩、運動させ、ふれあわせることの意義・使役動物の歴史と福祉
23	第11章動物の基本的な取り扱い（犬）	基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法
24	第11章動物の基本的な取り扱い（犬）	基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法・定期的な予防管理
25	第10章使役動物	使役動物の歴史と福祉
26	第10章使役動物	身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）

	授業計画及び学習の内容	
27	第10章使役動物	その他の使役犬
28	第11章動物の基本的な取り扱い（猫）	基本的グルーミング（ブラッシング、耳掃除、爪切り、口腔内衛生管理など）の目的・方法
29	第11章動物の基本的な取り扱い（猫）	基本的グルーミング（ブラッシング、耳掃除、爪切り、口腔内衛生管理など）の目的・方法
30	第11章動物の基本的な取り扱い（猫）	動物愛護史

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	人と動物の関係学	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義
担当教員	芝田早苗		
授業概要	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。		
到達目標	人間と動物の関わり、人間の福祉と愛玩動物の関わり、動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻　人と動物の関係学		
評価方法	出席率80%以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章人と動物の関わりの歴史	人と動物の関わり
2	第1章人と動物の関わりの歴史	人と動物の関わり
3	第1章人と動物の関わりの歴史	文学・芸術における動物：日本
4	第1章人と動物の関わりの歴史	文学・芸術における動物：日本
5	第1章人と動物の関わりの歴史	日本と西洋における動物の関わりの比較
6	第1章人と動物の関わりの歴史	日本と西洋における動物の関わりの比較
7	第1章人と動物の関わりの歴史	本章のまとめ
8	第2章現代の人と動物の関わり	動物の飼育と利用の現状
9	第2章現代の人と動物の関わり	動物の飼育と利用の現状
10	第2章現代の人と動物の関わり	人の生活に貢献する動物の役割
11	第2章現代の人と動物の関わり	人の生活に貢献する動物の役割
12	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の定義と歴史
13	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには
14	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには
15	ふりかえり	
16	第4章人間と動物の関わり	人はなぜペットを飼うのか　−人が動物をペットとして飼育する理由−
17	第4章人間と動物の関わり	ペット飼育の歴史と現状
18	第4章人間と動物の関わり	ペット飼育の歴史と現状
19	第4章人間と動物の関わり	ペットの飼育　−人と動物がともに幸せに暮らすために必要なこと−
20	第4章人間と動物の関わり	ペットへの愛着と依存
21	第4章人間と動物の関わり	ペットへの愛着と依存
22	第4章人間と動物の関わり	ペットロスの定義と対策
23	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待の定義と背景
24	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待への対処
25	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待の現状と法規制
26	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）の定義と背景
27	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	愛玩動物が子どもや高齢者に与える恩恵
28	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	加齢による飼育困難
29	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	Veterinary Social Workと動物看護師
30	ふりかえり	

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物形態機能学実習	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	実習
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）・池田亜希子（獣医師）		
授業概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。		
到達目標	①顕微鏡各部位の名称、鏡検条件について理解する。顕微鏡の適切な操作法について修得する。顕微鏡の適切な管理法について理解する。②主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する。組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する。③骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する。代表的な関節の名称と構造、機能について理解する。代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する。模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する。生殖器の雌雄差について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻動物形態機能学・愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版・ビジュアルで学ぶ伴侶動物解剖生理学（緑書房）		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章第3節　顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
2	第1章第3節　顕微鏡操作法	
3	第1章第3節　顕微鏡操作法	
4	第1章第3節　顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
5	第1章第3節　顕微鏡操作法	
6	第1章第3節　顕微鏡操作法	
7	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	筋組織（骨格筋・心筋・平滑筋）
8		
9		
10	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	内臓：肝臓・膵臓・胃（消化器系）
11		内臓：腎臓・膀胱（泌尿器系）
12		内臓：肺、気管（呼吸器）
13	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	内臓：副腎・甲状腺（内分泌系）
14		内臓：精巣・卵巣・前立腺（生殖器）
15		ふりかえり
16	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・代表的な骨の名称と特徴
17		運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・代表的な骨の名称と特徴
18		運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・関節の動きと筋の関係
19	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・関節の動きと筋の関係
20		運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・複合的な構成をもつ部位
21		運動器系：骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
22	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
23		運動器系：骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
24		呼吸器系：各部位・臓器の位置・関係性
25	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	循環器：各部位・臓器の位置・関係性
26		消化器系：各部位・臓器の位置・関係性
27		消化器系：各部位・臓器の位置・関係性
28	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	泌尿器系：各部位・臓器の位置・関係性
29		生殖器系：各部位・臓器の位置・関係性
30		ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物内科看護学実習Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	実習
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）		
授業概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標	基本的な保定の実施、聴診器や体温計の取扱い、全身状態やバイタルサインの評価ができる。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	序章　実習に臨む前の心構え	動物の飼い主からの信頼を得るために
2	序章　実習に臨む前の心構え	動物に触れあう前の心構え
3	序章　実習に臨む前の心構え	動物に接する者の心構えの基本・愛玩動物看護者の倫理網領を理解して臨む・5つの自由（アニマル・ウェルフェア）および「動物の愛護及び管理に関する法律(動物愛護管理法）を知って臨む」
4	序章　実習に臨む前の心構え	犬と人とのコミュニケーションをとる方法とは =「ボディランゲージ」を知る。
5	序章　実習に臨む前の心構え	身支度の心得（身支度・身だしなみチェック）
6	序章　実習に臨む前の心構え	実習態度チェック項目・身の回りの環境を整理整頓、掃除する。手洗いを習慣にする。
7	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の保定とは
8	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の保定とは
9	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の保定時の注意・猫のボディランゲージ
10	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の運搬方法
11	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の基本保定法：立位保定法
12	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の基本保定法：犬座位保定法
13	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本保定法：伏臥位保定法
14	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的保定法：横臥位保定法
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的な保定法：横臥位保定法
17	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の保定時の注意
18	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の診察台への上げ下ろし
19	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的保定法：立位保定法
20	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的保定法：犬座位保定法
21	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的保定法：伏臥位保定法
22	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的な保定法：横臥位保定法
23	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価：体重測定
24	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価：体重測定
25	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価：体温測定
26	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価：体温測定
27	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価：体温測定
28	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価：バイタルサイン評価、心拍数の測定
29	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価：バイタルサイン評価、心拍数の測定
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物内科看護学実習Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	実習
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）・菅谷茜（獣医師）		
授業概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標	基本的な保定の実施、聴診器や体温計の取扱い、全身状態やバイタルサインの評価ができる。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価：呼吸数の測定
2	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価：股動脈圧
3	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価：股動脈圧
4	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価：可視粘膜観察（CRT）
5	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価：可視粘膜観察（CRT）
6	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価：浅在リンパ節
7	第2章第4節　注射器の取扱い	注射器の扱い方と薬剤の準備
8	第2章第4節　注射器の取扱い	シリンジの構造、注射器の構造
9	第2章第4節　注射器の取扱い	シリンジへの注射針接続、注射針キャップの外し方、つけ方
10	第2章第4節　注射器の取扱い	シリンジへの注射針接続、注射針キャップの外し方、つけ方
11	第2章第4節　注射器の取扱い	注射針の外し方、注射針の持ち方、薬剤の準備（アンプル）
12	第2章第4節　注射器の取扱い	薬剤の準備（バイアル）
13	第2章第4節　注射器の取扱い	注射法に応じたシリンジの準備（皮内注射、皮下注射）
14	第2章第4節　注射器の取扱い	注射法に応じたシリンジの準備（筋肉内注射、静脈内注射）
15	第2章第4節　注射器の取扱い	注射法に応じたシリンジの準備（皮内注射、腹腔内注射）
16	第2章第5節 動物看護技術の応用	採血時の補助・採血時の保定
17	第2章第5節 動物看護技術の応用	採血時の補助・採血時の保定
18	第2章第5節 動物看護技術の応用	外耳処置時の補助・エリザベスカラーの装着
19	第2章第5節 動物看護技術の応用	獣医師による投薬量計算・調剤
20	第2章第5節 動物看護技術の応用	獣医師による投薬量計算・調剤
21	第2章第5節 動物看護技術の応用	薬剤を取り扱う上での注意点、薬剤の使用方法の説明、医薬品の在庫管理、医薬品の廃棄、医薬品容器包装等の廃棄
22	第2章第5節 動物看護技術の応用	薬剤の取り扱い、処方箋と調剤用語
23	第2章第5節 動物看護技術の応用	薬剤の形状・投薬方法（内服法・外用薬）
24	第2章第5節 動物看護技術の応用	分包の仕方・錠剤の分割・乳鉢と乳棒を用いた粉砕・内服用液剤の秤取・散剤の秤取
25	第2章第5節 動物看護技術の応用	腹帯の装着、創傷管理にあたって
26	第2章第5節 動物看護技術の応用	創傷保護に用いるドレッシング材とバンデージ
27	第2章第5節 動物看護技術の応用	包帯法、創傷管理の観察ポイント
28	第2章第5節 動物看護技術の応用	罨法・冷罨法（アイシング）
29	第2章第5節 動物看護技術の応用	罨法・冷罨法（アイシング）・吸引法（サクション）
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物臨床検査学実習Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	実習
担当教員	菅谷茜（獣医師）		
授業概要	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標	①検体採取、処理の手順、②血液採取法と各成分に応じた保存法、③血液抗凝固剤の種類と特徴、④尿採取法と保存方法、⑤採便法と保存方法、⑥貯留液処理における採取法、保存法について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第3章第1節　検体処理	血液採取法
2	第3章第1節　検体処理	橈側皮静脈・外側伏在静脈
3	第3章第1節　検体処理	大腿静脈、頸静脈
4	第3章第1節　検体処理	採血で準備するもの、採血の流れ
5	第3章第1節　検体処理	採血の処理・保存法・採血管への分注・転倒混和
6	第3章第1節　検体処理	血液抗凝固剤の種類と特徴
7	第3章第2節　血液検査	CBC検査の意義
8	第3章第2節　血液検査	CBC検査の手技
9	第3章第2節　血液検査	ヘマトクリット管を用いる方法
10	第3章第2節　血液検査	マイクロピペットの使用法と血液外注検査（採血）
11	第3章第2節　血液検査	血液塗抹標本作成の意義
12	第3章第2節　血液検査	血液塗抹標本の作成方法：スライドグラスを用いる方法
13	第3章第2節　血液検査	血液塗抹標本の作成方法：カバーガラスを用いる方法
14	第3章第2節　血液検査	ギムザ染色
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章第2節　血液検査	キットを使用した迅速染色・封入
17	第3章第2節　血液検査	赤血球の観察（採血）
18	第3章第2節　血液検査	白血球の観察・白血球の百分比算定
19	第3章第2節　血液検査	血液化学検査
20	第3章第2節　血液検査	手技・輸血時のクロスマッチ（採血）
21	第3章第2節　血液検査	住血寄生虫の検査法・簡易キットを用いた免疫学的検査・凝固検査
22	第3章第1節　検体処理	尿採取法：自然排尿
23	第3章第1節　検体処理	尿採取法：圧迫排尿
24	第3章第1節　検体処理	尿採取法：導尿
25	第3章第1節　検体処理	尿採取法：膀胱穿刺・尿の保存法
26	第3章第1節　検体処理	採便法
27	第3章第1節　検体処理	採便と保存法
28	第3章第1節　検体処理	貯留液処理における採取法
29	第3章第1節　検体処理	貯留液処理における保存法
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	グルーミング実習Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	96
対象年次	1年	授業形態	96
	植村豊、田下政雄、飯田美雪、芝田早苗、中村知里、関口和実、若林智子、利根川紘子、小美野夏帆美、秋葉雅心、佐野萌衣、新里碧、浅井あずさ、内堀快晴、佐藤圭太朗、鈴木時枝、矢島英子		
授業概要	代表的な犬種（長毛犬種・プードル種・スパニエル種・テリア種）においての様々なライフステージや疾患を罹患している際に安全にメディカルグルーミングを実施するための知識やスキルを習得する。		
到達目標	グルーミング、トリミングの目的や必要性を理解し実習において実践する。		
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル（公認トリマー教本）・JKC全犬種標準書		
評価方法	出席率2/3以上・ウィッグ試験（作品の提出・60点以上）		

時間	授業計画及び学習の内容				
1	トレーニング①	22	トレーニング⑧	43	トレーニング⑮
2		23		44	
3		24		45	
4	トレーニング②	25	トレーニング⑨		
5		26			
6		27			
7	トレーニング③	28	トレーニング⑩		
8		29			
9		30			
10	トレーニング④	31	トレーニング⑪		
11		32			
12		33			
13	トレーニング⑤	34	トレーニング⑫		
14		35			
15		36			
16	トレーニング⑥	37	トレーニング⑬		
17		38			
18		39			
19	トレーニング⑦	40	トレーニング⑭		
20		41			
21		42			
46	実習(ウィッグ試験)	ウィッグ試験①	※ウィッグの提出で試験となるが、通常の試験のルールとは異なり、試験期間中に作品の提出をもって評価となる。		
47		ウィッグ試験②			
48		ウィッグ試験③			
49	実習心得	実習心得①			
50		実習心得②			
51		実習心得③			
52		実習心得④			
53		実習心得⑤			
54		実習心得⑥			
55-96	グルーミング実習				

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	グルーミング実習Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	90
対象年次	1年	授業形態	実習
	植村豊、田下政雄、飯田美雪、芝田早苗、中村知里、関口和実、若林智子、利根川紘子、小美野夏帆美、秋葉雅心、佐野萌衣、新里碧、浅井あずさ、内堀快晴、佐藤圭太朗、鈴木時枝、矢島英子		
授業概要	代表的な犬種（長毛犬種・プードル種・スパニエル種・テリア種）においての様々なライフステージや疾患を罹患している際に安全にメディカルグルーミングを実施するための知識やスキルを習得する。		
到達目標	グルーミング、トリミングの目的や必要性を理解し実習において実践する。		
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル（公認トリマー教本）・JKC全犬種標準書		
評価方法	出席率2/3以上		

時間	授業計画及び学習の内容	
97-186	グルーミング実習	

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	総合学習Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	147
対象年次	1年	授業形態	実習
担当教員	校長・クラス担任・就職担当・外部講師		
授業概要	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・ 総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。		
到達目標	就職活動や就職後に必要なビジネススキルを身に付ける。		
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル（公認トリマー教本）・JKC全犬種標準書・ プードル・トリミングの教科書・ドッググルーミングブック		
評価方法	出席率2/3以上・試験(①プードル、②テリア、③マルチ・シーズ・ヨーキ、④コッカ、⑤ポメ・シェルティ・グルーミング)は出席率を満たした上で試験有。		

	授業計画及び学習の内容		
1	プードル①	金子幸一	①プードル
2	プードル②	金子幸一	
3	プードル③	金子幸一	
4	プードル④	金子幸一	
5	プードル⑤	金子幸一	
6	プードル⑥	金子幸一	
7	プードル⑦	金子幸一	
8	プードル⑧	金子幸一	
9	プードル⑨	金子幸一	
10	プードル⑩	金子幸一	
11	プードル⑪	金子幸一	
12	プードル⑫	金子幸一	
13	プードル⑬	金子幸一	
14	プードル⑭	金子幸一	
15	プードル⑮	金子幸一	
16	テリア①	飯田美雪	②テリア
17	テリア②	飯田美雪	
18	テリア③	飯田美雪	
19	テリア④	飯田美雪	
20	テリア⑤	飯田美雪	
21	テリア⑥	飯田美雪	
22	テリア⑦	飯田美雪	
23	テリア⑧	飯田美雪	
24	テリア⑨	飯田美雪	
25	テリア⑩	飯田美雪	
26	テリア⑪	飯田美雪	
27	テリア⑫	飯田美雪	
28	テリア⑬	飯田美雪	
29	テリア⑭	飯田美雪	
30	テリア⑮	飯田美雪	
31	マルチーズ①	利根川紘子	③マルチ・シーズ・ヨーキ
32	マルチーズ②	利根川紘子	
33	マルチーズ③	利根川紘子	

	授業計画及び学習の内容		
34	マルチーズ④	利根川紘子	
35	マルチーズ⑤	利根川紘子	
36	マルチーズ⑥	利根川紘子	
37	シーズー①	小美野夏帆美	
38	シーズー②	小美野夏帆美	
39	シーズー③	小美野夏帆美	
40	シーズー④	小美野夏帆美	
41	シーズー⑤	小美野夏帆美	
42	シーズー⑥	小美野夏帆美	
43	ヨーキー①	中村知里	
44	ヨーキー②	中村知里	
45	ヨーキー③	中村知里	
46	ヨーキー④	中村知里	
47	ヨーキー⑤	中村知里	
48	ヨーキー⑥	中村知里	
49	コッカスパニエル①	田下政雄	④コッカ
50	コッカスパニエル②	田下政雄	
51	コッカスパニエル③	田下政雄	
52	コッカスパニエル④	田下政雄	
53	コッカスパニエル⑤	田下政雄	
54	コッカスパニエル⑥	田下政雄	
55	コッカスパニエル⑦	田下政雄	
56	コッカスパニエル⑧	田下政雄	
57	コッカスパニエル⑨	田下政雄	
58	コッカスパニエル⑩	田下政雄	
59	コッカスパニエル⑪	田下政雄	
60	コッカスパニエル⑫	田下政雄	
61	ポメラニアン①	若林智子	⑤ポメ・シェルティ・グルーミング
62	ポメラニアン②	若林智子	
63	ポメラニアン③	若林智子	
64	ポメラニアン④	若林智子	
65	ポメラニアン⑤	若林智子	
66	ポメラニアン⑥	若林智子	
67	シェルティ―①	芝田早苗	
68	シェルティ―②	芝田早苗	
69	シェルティ―③	芝田早苗	
70	シェルティ―④	芝田早苗	
71	シェルティ―⑤	芝田早苗	
72	シェルティ―⑥	芝田早苗	
73	グルーミング①	渡辺まゆみ	ドッググルーミングブック使用
74	グルーミング②	渡辺まゆみ	
75	グルーミング③	渡辺まゆみ	
76	グルーミング④	渡辺まゆみ	
77	グルーミング⑤	渡辺まゆみ	
78	グルーミング⑥	渡辺まゆみ	
79	コッカスパニエル　実講①	田下政雄	

	授業計画及び学習の内容		
80	コッカスパニエル　実講②	田下政雄	
81	コッカスパニエル　実講③	田下政雄	
82	Mシュナ①	飯田美雪	
83	Mシュナ②	飯田美雪	
84	Mシュナ③	飯田美雪	
85	Mシュナ④	飯田美雪	
86	Mシュナ⑤	飯田美雪	
87	Mシュナ⑥	飯田美雪	
88	就学規則		
89	就学規則		
90	就学規則		
91	オリエンテーション①		
92	オリエンテーション①		
93	オリエンテーション①		
94	オリエンテーション②		
95	オリエンテーション②		
96	オリエンテーション②		
97	講義準備		
98	講義準備		
99	講義準備		
100	器具配布		
101	器具配布		
102	器具配布		
103	旅行説明		
104	特別講義①	シャンプーマシーンメーカー	
105	特別講義①	シャンプーマシーンメーカー	
106	研修旅行①		
107	研修旅行①		
108	研修旅行①		
109	研修旅行①		
110	研修旅行①		
111	研修旅行①		
112	研修旅行②		
113	研修旅行②		
114	研修旅行②		
115	研修旅行②		
116	研修旅行②		
117	研修旅行②		
118	課外研修①	接客やサービスを学ぶ	
119	課外研修①	〃	
120	課外研修①	〃	
121	課外研修②	FCIドッグショー見学　後期	
122	課外研修②	〃	
123	課外研修②	〃	
124	接客マナー①	社会人としてのマナー講習	
125	接客マナー①	〃	

	授業計画及び学習の内容	
126	接客マナー①	〃
127	接客マナー②	〃
128	接客マナー②	〃
129	接客マナー②	〃
130	特別講義	シャンプーメーカー
131	特別講義	〃
132	特別講義	〃
133	特別講義	ハサミ・バリカンメーカー
134	特別講義	〃
135	特別講義	〃
136	就職分野説明	
137	就職分野説明	
138	就職分野説明	
139	特別講義②	シャンプーマシーンメーカー
140	特別講義②	シャンプーマシーンメーカー
141	特別講義②	シャンプーマシーンメーカー
142	特別講義③	
143	特別講義③	
144	特別講義③	
145	特別講義④	
146	特別講義④	
147	特別講義④	